



# 日本高等教育学会第 17 回大会 プログラム

2014 年 6 月 28 日（土）～29 日（日）  
大阪大学（豊中キャンパス）

The 17th Annual Meeting

**JAHER**

Japanese Association of Higher Education Research

日本高等教育学会

（共催）



大阪大学  
全学教育推進機構  
Center for Education in Liberal Arts and Sciences



大阪大学未来戦略機構  
Institute for Academic Initiatives

## ごあいさつ

2014年6月28日(土)・29日(日)に、大阪大学豊中キャンパスで日本高等教育学会第17回大会を開催することになりました。

大会に先立ちまして、会員の皆様から自由研究発表の申し込みを募りましたところ、おかげさまで86件の申し込みがございました。詳しくは本プログラムをご覧いただければと思いますが、発表テーマも多様であり、当日の活発な討論が予想されます。また、大会1日目の午後に予定されている課題研究では、「高等教育研究と政策」、「日本の大学院教育を考える(1)―第2期拡張期の帰結―」という2つの部会が開かれます。いずれも現代の高等教育において重要な課題であり、今後の高等教育研究に対して示唆に富む発表が行われます。どの部会におきましても、フロアからも積極的に討議にご参加いただければ幸いです。

大会2日目の午後には公開シンポジウム「新しい大学・大学院教育の形を考える～高度な教養教育と専門教育の融合で何が生まれるか～」を開きます。大学改革という大きな流れの中で、社会に有意な人材の輩出が求められている大学はどのような新しい教育を形作ろうとしているのか、2つの大学から新たな大学教育の事例をその背景とともにご紹介いただき、さらに政策からの視点と社会からの視点によって検討を行います。特に、積年の課題である教養教育と専門教育との融合が一体何を生み出すのか、その行く末を探ることができればと思います。

また、大会2日目の夕方には、学会主催ワークショップ「日本型IRをどう作るか」が開かれます。大学教育の質保証や大学経営を下支えするIR機能が、各大学でさまざまな形態で整備されていく中で、各組織は、同じような問題や課題に直面しているようです。複数の大学の担当者とフロアの参加者とが、教職員ともに参加し、本音で語り合う機会となることが期待されます。

どうぞ皆様のお力添えで、第17回大会が、今後の高等教育について考える知的刺激と議論にみちた機会となりますことを切に希望いたします。会員の皆様の多数のご参加を、心よりお待ちしております。

日本高等教育学会 第17回大会実行委員会  
委員長 早田 幸政

## 大会日程

6月27日 (金)

18:00 ~ 19:00 理事会 (大阪大学会館会議室)

6月28日 (土)

9:15 ~ 受付 (管理講義A棟1Fピロティ)

10:00 ~ 12:00 自由研究発表 I (各教室)

12:00 ~ 13:00 課題研究 I 打ち合わせ (A203)

12:00 ~ 13:00 課題研究 II 打ち合わせ (B206)

13:00 ~ 15:00 自由研究発表 II (各教室)

15:10 ~ 17:40 課題研究

課題研究 I

「高等教育研究と政策」

(B 2 1 8)

課題研究 II

「日本の大学院教育を考える (1) —第2期拡張期の帰結—」

(B 2 0 7)

18:00 ~ 20:00 懇親会 (福利会館4階)

6月29日 (日)

9:00 ~ 受付 (管理講義A棟1Fピロティ)

9:30 ~ 11:40 自由研究発表 III (各教室)

11:40 ~ 12:00 公開シンポジウム打ち合わせ (A203)

12:00 ~ 12:40 総会打ち合わせ (A103)

11:40 ~ 12:40 編集委員会 打ち合わせ (B206)

12:40 ~ 13:10 総会 (大講義室)

13:20 ~ 16:20 公開シンポジウム

「新しい大学・大学院教育の形を考える

～高度な教養教育と専門教育の融合で何が生まれるか～」

(大講義室)

16:30 ~ 18:00 学会主催 IRワークショップ

「日本型IRをどう作るか」

(B 1 1 8)

## 大会参加のご案内

### 参加費

大会参加費：6,000 円 (事前振込の方は5,000 円)

懇親会費： 5,000 円 (事前振込の方は4,500 円)

\*会員でない方も臨時会員として参加できます。参加費は正会員と同額です。

\*\*シンポジウムは無料で一般に公開します。

事前振込は会員  
のみの取扱で  
す。会員でない  
方は、当日に受  
付にて現金でお  
支払い下さい。

今大会では、大会参加費、懇親会費につき、事前振込みをお願いしております。大会当日もご参加を受付けますが、できるだけ事前振込みをご利用ください。事前振込みの場合は、大会参加費を1000円、懇親会費を500円、それぞれ割引させていただきます。

大会案内同封または郵便局備付けの郵便振替用紙にて、お名前、ご連絡先、費目(参加費、懇親会費、二日目の弁当代)をご記入の上、「(加入者名)日本高等教育学会第17回大会実行委員会(口座記号番号00970-8-273891)」に、**6月13日(金)まで(延長しました)**にお振込みください。それ以降は、当日受付にてお支払いください。振替用紙は、お申込みお一人につき1枚をご使用ください。振込手数料は、各自でご負担ください。

### 学会年会費

大会会場では、学会年会費の納入はできませんのでご了承ください。

### 入場

会場及び懇親会会場への入場は、必ずネームプレートをつけて下さい。原則としてネームプレートのない方は入場できません。なお、ネームプレートはお帰りの際に受付にお返しください。

### 呼び出し

会場での呼び出しは行いませんのでご了承ください。

### 欠席の場合

発表者が欠席する場合は、わかり次第、できるだけ早く大会実行委員会に E-mail にてお知らせください(大会実行委員会 E-mail : jaher2014@celas.osaka-u.ac.jp)。

### 資料のコピー

大会実行委員会によるコピーサービスは行いません。自由研究発表用の配付資料等は各自が必要な部数をご用意ください。

### 昼食

土曜日のみ、図書館下食堂(11:00-15:00)、宙(sora)(8:30-20:00)、福利会館3階食堂(11:00-14:00)、図書館下食品店、コミュニティストアなどがキャンパス内で営業しています。

日曜日はキャンパス内の食堂やコンビニエンスストアが営業しておらず、周辺の飲食店も極めて限られておりますので、昼食のお弁当(1000円)の注文を受け付けます。お弁当の注文は事前振込をもって注文とさせていただきます(大会参加費等に1000円を追加し、通信欄に弁当を注文する旨を記載してください。)。弁当は事前に申込みをされた方へのみの提供となりますので、ご注意ください。

### 会員控室

大会期間中はA202教室が会員控室になります。会員控室にはお茶を用意しています。書籍等の展示コーナーは、B棟2階ホールを予定しています。

### クローク

クロークをご用意しておりません。貴重品は各自管理してください。

### 懇親会

28日(土)18:00~20:00、豊中キャンパス内の福利会館4階にて懇親会を開催します。是非ご参加ください。

### 喫煙場所

建物内は全面禁煙になっています。喫煙は屋外の決められた場所をお願いします。

## 発表者へのお願い

### ●発表および質疑応答時間

発表人数	発表時間	質疑応答時間
1 人	15 分	5 分
2 人	30 分	10 分
3 人以上	40 分	10 分

※全ての発表について、以下の要領で時間の目安をお知らせします。

- 【1 鈴】発表終了5分前
- 【2 鈴】発表終了時
- 【3 鈴】質疑応答終了時

### ●発表用機械器具

大会会場には、プロジェクターおよびmini D-sub15ピン VGAケーブル、パソコン（Windows 7）を用意します。当方で準備するパソコンを利用される場合は、Windows Office2003/2007形式（.ppt/.pptx, .doc/.docx等）及びPDF（.pdf）であれば、基本的に対応可能です。発表ファイルを入れたUSBメモリ等をご用意ください。ご自身のパソコンを利用希望の場合には必要な機器を持参の上、発表部会開始前に動作確認をお願いいたします。なお、必ずしも対応できない場合もあることをご了承ください。

## 司会者へのお願い

### ●発表および質疑応答時間

予定時間を超過しないように時間管理をお願いします。

### ●総括討論

各セッションの最後に総括討論の時間を設けておりますが、利用できる時間はそれぞれの部会によって異なります。この時間の活用方法は司会者に一任しておりますので、臨機応変に対応していただきますようお願い申し上げます。

### ○緊急連絡先

発表者、司会者ともに、当日に緊急の連絡をしなければならない場合には、以下の番号をご使用ください。

大会事務局： (6月27日午後～6月29日のみ使用可)

 **紙媒体のプログラムに記載**

## 会場へのアクセス

会場 大阪大学 全学教育推進機構（豊中キャンパス）（大阪府豊中市待兼山町 1-16）

### ●交通アクセス

□ 大阪（伊丹）空港からお越しの場合

大阪空港駅から大阪モノレールに乗り、柴原駅下車(所要時間約 6 分)、徒歩 約 12 分。

□ 新大阪駅からお越しの場合

新大阪駅から大阪市営地下鉄御堂筋線に乗り、千里中央駅下車、大阪モノレールに乗り換え、柴原駅下車(所要時間約 30 分)、柴原駅より徒歩 約 12 分。

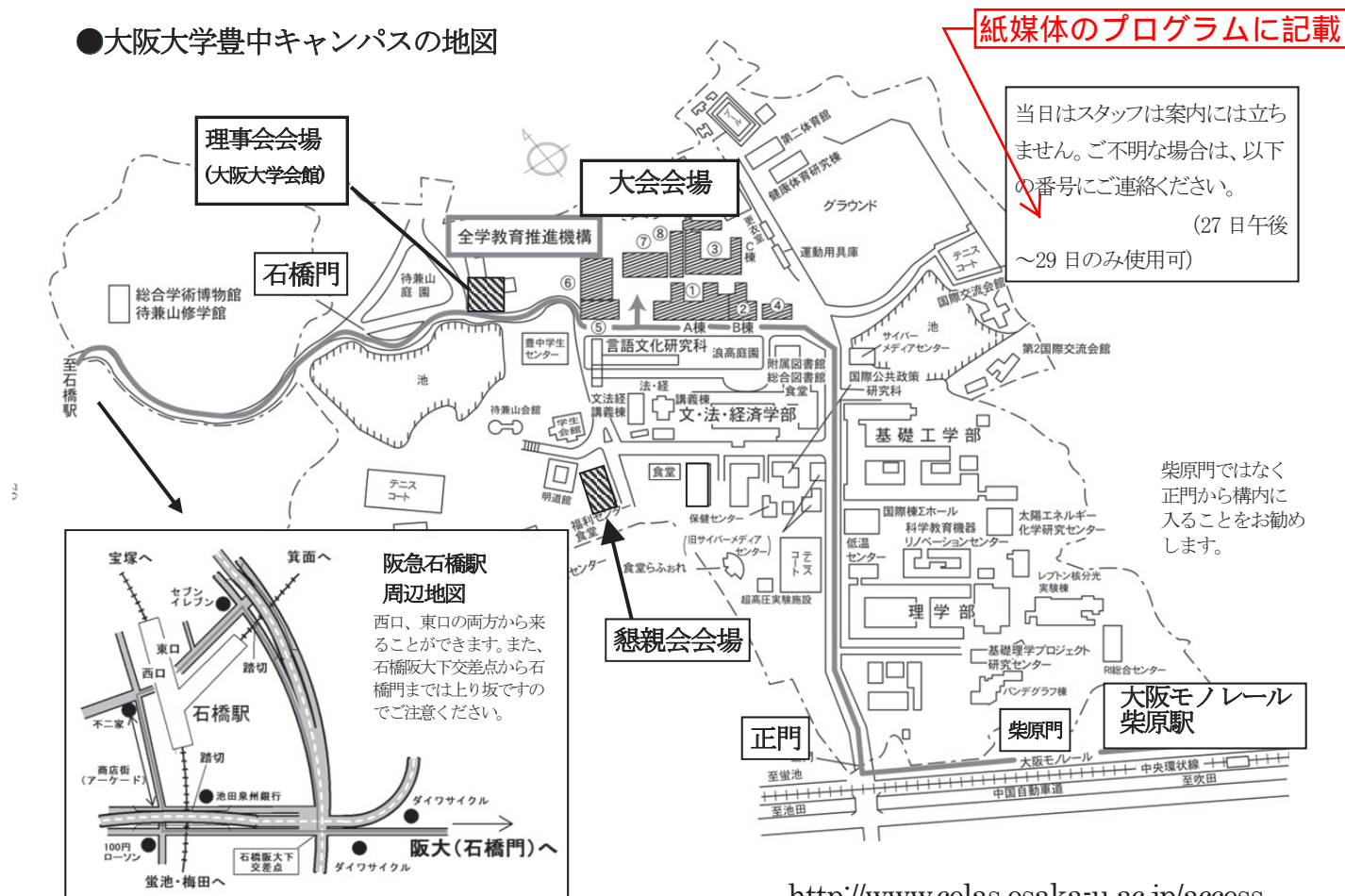
□ 大阪・梅田駅からお越しの場合

阪急梅田駅から阪急宝塚線に乗り、石橋駅下車(所要時間約 20 分)、石橋駅のいずれの改札口からも徒歩 約 15 分（但し、阪大坂下から石橋門までは上り坂です）。

または、蛍池駅下車、大阪モノレールに乗り換え、柴原駅下車(所要時間約 30 分)、柴原駅から徒歩 約 12 分。

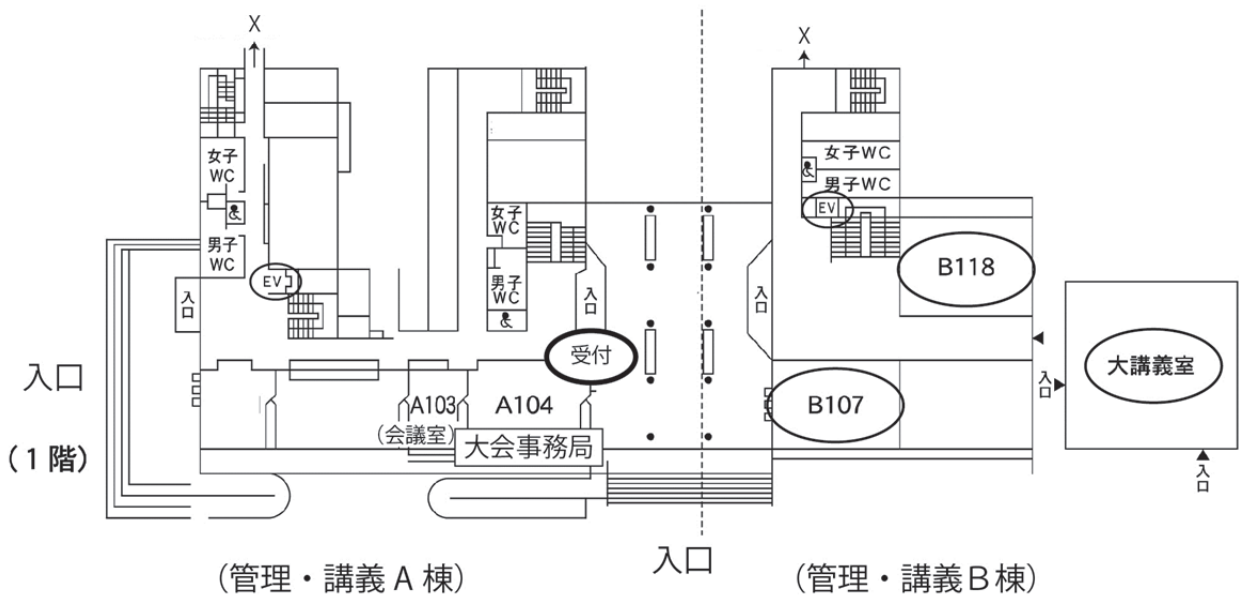
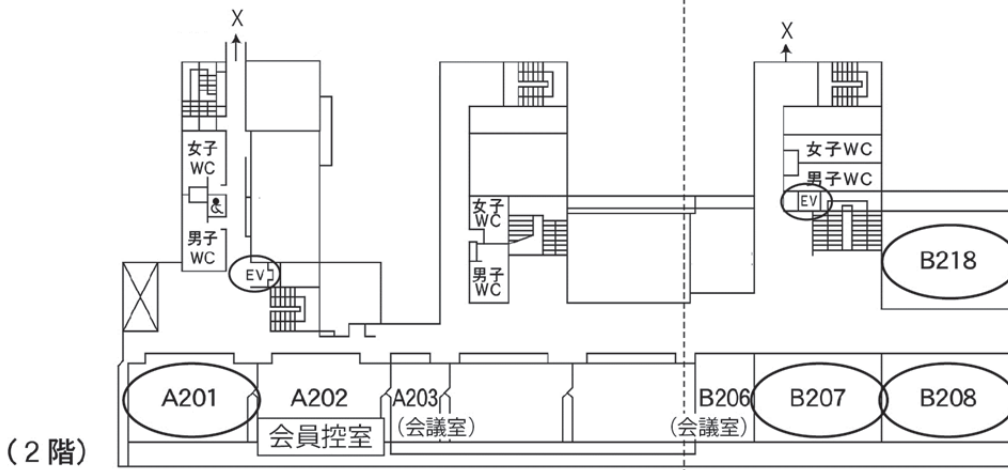
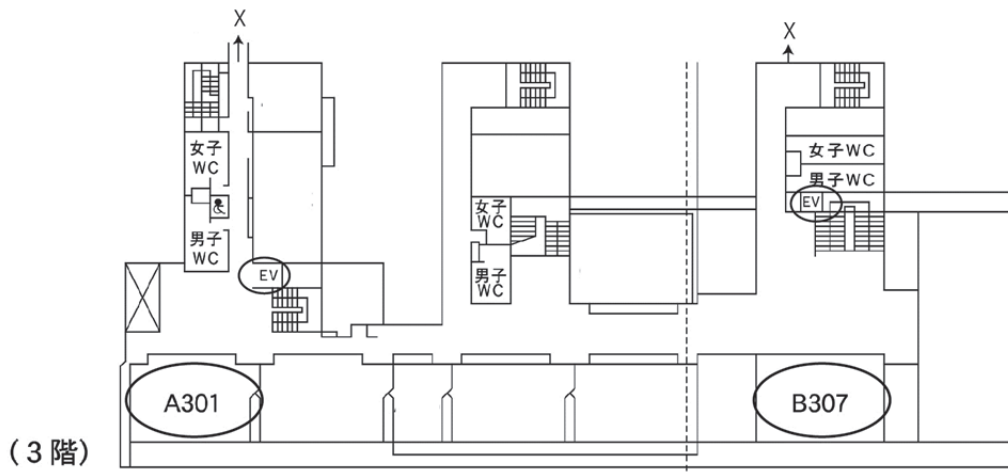
なお、タクシーの場合は、大阪空港からは 1,500 円程度、新大阪駅からは 5,000 円程度をみてください。

### ●大阪大学豊中キャンパスの地図



地図中、①全学教育管理・講義 A 棟、②全学教育講義 B 棟（①と②は繋がっています）、④全学教育大講義室、の 3 つの建物を使用します。理事会は大阪大学会館にて、懇親会は福利会館にて行います。

# 大会会場の地図



# 大会会場一覧

6月28日（土）

9:15～ 受付		
10:00～12:00 自由研究発表 I		
A 3 0 1	I - 1 部会	研究・産学連携
B 3 0 7	I - 2 部会	I C T利用・遠隔教育
A 2 0 1	I - 3 部会	入学・高大接続
B 2 0 7	I - 4 部会	財政・財務
B 2 0 8	I - 5 部会	I R
B 2 1 8	I - 6 部会	大学経営 I
13:00～15:00 自由研究発表 II		
A 3 0 1	II - 1 部会	大学教員
B 3 0 7	II - 2 部会	国際化 I
A 2 0 1	II - 3 部会	学生支援
B 2 0 7	II - 4 部会	教養教育
B 2 0 8	II - 5 部会	質保証 I
B 2 1 8	II - 6 部会	大学経営 II
15:10～17:40 課題研究		
B 2 1 8	(I) 高等教育研究と政策	
B 2 0 7	(II) 日本の大学院教育を考える (1) —第2期拡張期の帰結—	
18:00～20:00 福利会館 4 F 食堂 懇親会		

6月29日（日）

9:00～ 受付		
9:30～11:40 自由研究発表 III		
A 3 0 1	III - 1 部会	F D ・ S D
B 3 0 7	III - 2 部会	国際化 II
A 2 0 1	III - 3 部会	就職・卒業生
B 2 0 7	III - 4 部会	政策
B 2 0 8	III - 5 部会	質保証 II
B 2 1 8	III - 6 部会	大学評価
B 1 0 7	III - 7 部会	学生
大講義室		12:40～13:10 総会
		13:20～16:20 公開シンポジウム
大講義室		新しい大学・大学院教育の形を考える ～高度な教養教育と専門教育の融合で 何が生まれるか～
		16:30～18:00 ワークショップ
B 1 1 8		学会主催 IR ワークショップ 日本型 IR をどう作るか



---

I-1部会 A301

## 研究・産学連携

司会： 塚原 修一（関西国際大学） 林 隆之（大学評価・学位授与機構）

10:00-10:20 チェコ大学における産学連携・学術交流の動向

○石倉 瑞恵（石川県立大学）

10:20-10:40 中国の高等職業教育における個別企業と学校の連携状況と課題

○亀野 淳（北海道大学）

10:40-11:00 研究データの公開と学問的誠実性

—英国イースト・アングリア大学気候研究部門のメール流出事件を参考に—

○田中 正弘（弘前大学）

11:00-11:20 マーケティングデータに基づく自然科学・生命科学系学術誌に関する威信構造の分析

—ディシプリン・研究領域別の比較とその特徴—

○白川 展之（新エネルギー・産業技術総合開発機構）

\*林 和弘（非会員：科学技術・学術政策研究所）

\*古川 貴雄（非会員：科学技術・学術政策研究所）

11:20-11:40 わが国の研究大学の階層構造の変化

○山崎 博敏（広島大学）

---

I-2部会 B307

## ICT利用・遠隔教育

司会： 吉田 文（早稲田大学） 黄 梅英（尚絅学院大学）

10:00-10:20 デジタル化時代における高等教育を考える —MOOCを契機として変わるキャンパス教育—

○船守 美穂（東京大学）

10:20-10:40 マルチリテラシー時代における大学図書館と職員の役割

—教育・研究の高度化と教員の負担軽減を目指して—

○梅澤 貴典（中央大学）

10:40-11:00 オンライン授業の国際動向 —米日中の比較分析—

○苑復傑（放送大学）

11:00-11:20 レスポンスアナライザ（授業応答システム）にスマートフォンを活用した授業改善の試行と学習成果

○武田 直仁（名城大学）

\*小林 建太郎（非会員：デジタル・ナレッジ）

11:20-11:40 スクーリング（面接授業）の変化から見る大学通信教育の変容と変質

○鈴木 克夫（桜美林大学）

---

I-3部会 A201

## 入学・高大接続

司会： 荒井 克弘（大学入試センター） 朴澤 泰男（一橋大学）

- 10:00-10:20 職業人の大学院入学に向けての阻害要因乗り越え過程  
—K大学専門職大学院生へのインタビュー調査から—  
○出相 泰裕（大阪教育大学）
- 10:20-10:40 ユニバーサル時代における高大教育接続の在り方を考える  
○深堀 聰子（国立教育政策研究所）
- 10:40-11:00 ドイツの大学入学資格（アビトゥーア）をめぐる変化と大学への影響  
○吉川 裕美子（大学評価・学位授与機構）
- 11:00-11:20 大学生の奨学金受給行動とその要因に関する研究 —関西3大学での面接調査から—  
○西尾 亜希子（武庫川女子大学）
- 11:20-11:40 大学『入学案内』における就職情報の位置づけ  
○長尾 由希子（聖カタリナ大学）

---

I-4部会 B207

## 財政・財務

司会： 浦田 広朗（名城大学） 田中 敬文（東京学芸大学）

- 10:00-10:20 米国高等教育機関における教育コスト情報活用の実態  
○水田 健輔（東北公益文科大学）
- 10:20-10:40 国立大学法人（国立大学）の授業料免除政策について —平成24年度データを踏まえて—  
○鳥居 聖（桜美林大学）
- 10:40-11:00 日本国立大学における業績の資源配分への反映ルールの再構築  
○張 慧嫻（早稲田大学）
- 11:00-11:20 法人化による公立大学の変容 —財務面への影響に着目して—  
○菊池 芳明（横浜市立大学）
- 11:20-11:40 イギリスにおける高等教育改革の動向 —2006年と2012年の授業料と学生支援改革を中心に—  
○小林 雅之（東京大学）

---

I-5部会 B208

IR

司会： 山本 眞一 (桜美林大学) 中井 俊樹 (名古屋大学)

10:00-10:20 大学評価における Quality Assurance と Institutional Effectiveness の日米比較

○小湊 卓夫 (九州大学) 畠田 敏行 (茨城大学)

10:20-10:40 米国の中規模州立大学の IR オフィスおよび国立大学の評価

—IR 部署における業務の現状と今後の展開に関する一考察—

○畠田 敏行 (茨城大学) \*藤原 宏司 (非会員：ベミジ州立大学 (ミネソタ州立大学機構))  
浅野 茂 (大学評価・学位授与機構) \*大野 賢一 (非会員：鳥取大学)  
関 隆宏 (新潟大学) 小湊 卓夫 (九州大学) 土橋 慶章 (神戸大学)  
\*本田 寛輔 (非会員：メイン州立大学アーガスタ校)

10:40-11:00 金沢工業大学における法人・教員・職員協同型 IR システムの現況と課題

—個別修学指導から教育課程の適正化に向けて—

○西村 秀雄 (金沢工業大学)

11:00-11:50 質保証に向けた IR の役割 —日米比較の視点から—

○森 利枝 (大学評価・学位授与機構) 小林 雅之 (東京大学)  
浅野 茂 (大学評価・学位授与機構) ○山田 礼子 (同志社大学)  
○劉 文君 (東洋大学)

---

I-6部会 B218

大学経営 I

司会： 田中 義郎 (桜美林大学) 島 一則 (広島大学)

10:00-10:20 フランスにおける大学の組織運営

○白鳥 義彦 (神戸大学)

10:20-10:40 フィンランドの大学ガバナンス —法人化・財団化後の変化に着目して—

○渡邊 あや (国立教育政策研究所)

10:40-11:00 大学経営研究のアポリアとしての脱制度化

○平塚 力 (京都文教大学)

11:00-11:20 大学におけるガバナンスと経営効率との関係性の実証研究

○宮嶋 恒二 (京都学園大学) 山崎 その (京都外国語大学) \*伊多波 良雄 (非会員：同志社大学)

11:20-11:40 大学マネジメントにおける職群間の相互作用に関する研究枠組み

○山本 清 (東京大学)

---

---

II-1部会 A301

## 大学教員

司会： 夏目 達也 (名古屋大学) 岩田 弘三 (武蔵野大学)

13:00-13:20 大学教員の教育活動と研究活動の補完性に関する分析  
—大規模私立大学におけるケーススタディー—

○中島 英博 (名城大学)

13:20-13:40 ボーダーフリー大学教員の大学教授職に対する認識 —「教育志向の教員」の再検討—

○葛城 浩一 (香川大学)

13:40-14:00 「内外協力による大学運営」 —現代中国の模索—

○李 尚波 (桜美林大学)

14:00-14:50 変貌する世界の大学教授職(1)—教育・研究活動とキャリアを中心として—

○有本 章 (くらしき作陽大学)      ○大膳 司 (広島大学)      ○木本 尚美 (県立広島大学)  
黄 福涛 (広島大学)      米澤 彰純 (名古屋大学)      藤村 正司 (広島大学)  
村澤 昌崇 (広島大学)      島 一則 (広島大学)      福留 東土 (東京大学)

---

II-2部会 B307

## 国際化 I

司会： 杉本 均 (京都大学) 大森 不二雄 (首都大学東京)

13:00-13:20 中国大学生の学習行動の構造に関する研究

○鮑 威 (北京大学)

13:20-13:40 中国人留学生が日本留学を決める要因に関する研究—Push-and-Pull モデルに基づいて—

○李 敏 (信州大学)

13:40-14:00 日韓両国における中国人留学生獲得競争

○有澤 尚志 (文部科学省)

14:00-14:20 博士課程に在籍する留学生の学業上のディスエンゲージメント経験と、彼らが描く  
キャリアビジョンのかかわり —フィンランドの大学の生物学分野の場合—

○櫻井 勇介 (University of Helsinki)      \*Virtanen Viivi (非会員 : University of Helsinki)  
\*Pyhältö Kirsi (非会員 : University of Helsinki)      \*Lindblom-Ylänne Sari (非会員 : University of Helsinki)

14:20-14:40 地方における教育の国際化の推進

○佐藤 由利子 (東京工業大学)

---

Ⅱ-3部会 A201

## 学生支援

司会： 岩永 雅也(放送大学) 大多和 直樹(帝京大学)

**13:00-13:20 戦後初期における学生支援の展開**

○蝶 慎一(東京大学)

**13:20-13:40 高等教育政策課題としての障害学生への合理的配慮**

—「障害者差別解消法」の平成28年4月施行に向けて—

○青野 透(金沢大学)

**13:40-14:00 大学図書館における学生アシスタントに関する研究—アメリカの大学図書館調査から—**

○溝上 智恵子(筑波大学)

○呑海 沙織(筑波大学)

**14:00-14:50 学生支援の最新動向と今後の展望**

—日本学生支援機構「大学等における学生支援の取組状況に関する調査(平成25年度)」の結果から—

○川島 啓二(国立教育政策研究所)

○橋場 論(福岡大学)

○小島 佐恵子(玉川大学)

○望月 由起(お茶の水女子大学)

○沖 清豪(早稲田大学)

○小貫 有紀子(大阪大学)

---

Ⅱ-4部会 B207

## 教養教育

司会： 江原 武一(立命館大学) 吉田 香奈(広島大学)

**13:00-13:20 現代日本における教養系学部の類型**

○栗原 郁太(玉川大学)

**13:20-13:40 カリフォルニア大学バークレー校のリベラル教育**

—幅広さと豊かさを求めるアプローチ—

○長野 公則(東京大学大学院)

**13:40-14:00 マス型高等教育段階における教育モデルに関する研究**

—アメリカとイギリス大学でのケーススタディー—

○黄 梅英(尚絅学院大学)

**14:00-14:20 学士課程カリキュラムにおけるクリティカルシンキングの育成とその評価**

○久保田 祐歌(愛知教育大学)

**14:20~14:40 3・11を経験した工学高等教育の課題 —工学リベラルアーツの可能性—**

○黒田 光太郎(名城大学大学院)

---

Ⅱ-5部会 B208

## 質保証Ⅰ

司会： 工藤 潤 (大学基準協会) 森 利枝 (大学評価・学位授与機構)

**13:00-13:20 履修単位の上限設定 —単位制度の実質化への貢献—**

○串本剛 (東北大学)

**13:20-13:40 博士課程教育リーディングプログラムにおける人物評価指標ならびに評価システムの開発**

○平井 啓 (大阪大学)

標葉 靖子 (大阪大学)

\*平田 収正 (非会員：大阪大学)

\*藤田 喜久雄 (非会員：大阪大学)

**13:40-14:00 博士課程教育リーディングプログラムにおける自己評価システムの開発**

○標葉 靖子 (大阪大学)

平井 啓 (大阪大学)

\*平田 収正 (非会員：大阪大学)

\*瀬戸山 晃一 (非会員：大阪大学)

\*西森 年寿 (非会員：大阪大学)

\*藤田 喜久雄 (非会員：大阪大学)

**14:00-14:40 アメリカ高等教育における Rubric を活用した評価の動向と日本への適用可能性と課題**

○濱名 篤 (関西国際大学)

○塚原 修一 (関西国際大学)

\*藤木 清 (非会員：関西国際大学)

---

Ⅱ-6部会 B218

## 大学経営Ⅱ

司会： 山本 清 (東京大学) 水田 健輔 (東北公益文科大学)

**13:00-13:20 学校法人のガバナンスに関する基礎的研究**

○村上 孝弘 (龍谷大学)

**13:20-13:40 私立大学の管理運営に関する実証的研究 —非公式的側面に着目して—**

○前田 一之 (広島大学)

**13:40-14:00 大学を設置する学校法人の組織特性 —寄附行為の分析—**

○小林 武夫 (産業能率大学)

**14:00-14:40 PPM の概念を組み入れた大学経営事業戦略モデル**

○小原 一仁 (玉川大学)

○大山 篤之 (ニッセイ基礎研究所)

---

Ⅲ-1部会 A301

FD・SD

司会： 大塚 雄作 (大学入試センター) 加藤 かおり (新潟大学)

9:30-9:50 英国の大学職員養成に関する研究 一日米との比較の視点より一

○高野 篤子 (大正大学)

9:50-10:10 段階別にみたプレFDの特徴とその目的

○田口 真奈 (京都大学) \*田中 一孝 (非会員：京都大学)

\*畑野 快 (非会員：京都大学)

10:10 -10:30 なぜ新人の能力に満足できないのか？

一 国公立大学職員に関する人事アンケート調査から一

○木村 弘志 (一橋大学)

10:30 -11:10 ドイツにおける教授法センターの変遷と現状

○吉永 契一郎 (東京農工大学) ○堀井 祐介 (金沢大学)

津田 純子 (新潟大学)

中島 英博 (名城大学)

---

Ⅲ-2部会 B307

国際化Ⅱ

司会： 杉本 和弘 (東北大学) 大佐古 紀雄 (育英短期大学)

9:30-10:10 人材流動化時代の大学改革

○松塚 ゆかり (一橋大学) ○大場 淳 (広島大学) 苑復傑 (放送大学)

深堀 聰子 (国立教育政策研究所)

\*北川 文美 (非会員：University of Manchester)

\*Adelman Clifford (非会員：Institute for Higher Education Policy)

\*Myagmar Ariuntuya (非会員：一橋大学)

\*布川 あゆみ (非会員：一橋大学)

\*李 承赫 (非会員：一橋大学)

10:10-10:30 国内主要大学における国際バカロレア修了者受け入れの現状

○津川 万里 (大阪大学)

石倉 佑季子 (大阪大学)

10:30 -10:50 英語学位取得プログラムによる高等教育の国際化

○石倉 佑季子 (大阪大学)

10:50-11:30 変貌する世界の大学教授職(2) 一国際化を中心として一

○黄 福涛 (広島大学)

○米澤 彰純 (名古屋大学)

有本 章 (くらしき作陽大学)

大膳 司 (広島大学)

木本 尚美 (県立広島大学)

藤村 正司 (広島大学)

村澤 昌崇 (広島大学)

島 一則 (広島大学)

福留 東土 (東京大学)

---

Ⅲ－3部会 A201

## 就職・卒業生

司会： 小杉 礼子（労働政策研究・研修機構） 稲永 由紀（筑波大学）

**9:30-9:50 大学の「卒業生事業」実施をめぐる促進要因と阻害要因**

○大川 一毅（岩手大学） 畠田 敏行（茨城大学） 西出 順郎（岩手県立大学）  
山下 泰弘（山形大学）

**9:50-10:10 大学における就職支援の効率性評価**

○山崎 その（京都外語大学） 宮嶋 恒二（京都学園大学） \*伊多波 良雄（非会員：同志社大学）

**10:10-10:30 学生の主体的な学修を通じたグローバルキャリアの展望**

－学生の主体的な学修を喚起する初年次キャリア教育を目指して－  
○江原 昭博（関西学院大学）

**10:30-11:20 人文科学系学士課程教育の成果：学習院大学卒業生調査の結果から**

○篠田 雅人（学習院大学） ○日下田 岳史（大正大学） ○谷村 英洋（立教大学）  
○中世古 貴彦（(独)国立美術館） \*小島 和男（非会員：学習院大学）

---

Ⅲ－4部会 B207

## 政策

司会： 池田 輝政（名城大学） 羽田 貴史（東北大学）

**9:30-9:50 大学院大学の設置形態に関する一考察 ー大学院生調査等を参照しながらー**

○林 透（山口大学）

**9:50-10:10 国立大学理学系学部の拡大と改組 ー地球科学系学科と環境冠学科の設置メカニズムー**

○内山 弘美（東京大学大学院）

**10:10-10:30 大学院・社会人段階の人材育成の方向性に関する比較分析**

○柴山 盛生（放送大学）

**10:30-10:50 法律政策に基づく角度からみた大学情報公開研究**

○劉 慶紅（立命館大学）

**10:50-11:10 輿論と政策形成**

○小方 直幸（東京大学）



---

Ⅲ-5部会 B208

## 質保証Ⅱ

司会： 杉谷 祐美子（青山学院大学） 鳥居 朋子（立命館大学）

9:30-9:50 共通教育カリキュラム改革からみえてきた成果と課題

—山口大学におけるカリキュラム改革の功罪—

○小川 勤（山口大学）

9:50-10:10 偏差値による大学特性の分析について —文系・理工系、国公立・私立の観点から—

○中島 弘至（東京大学）

10:10-10:30 地域における国立大学の存在意義 —長崎県の住民調査の結果から—

○川越 明日香（長崎大学）

橋本 健夫（関西国際大学）

10:30-11:10 短期大学学生調査の改訂及びその実施と運用方法に関する研究

○山崎 慎一（桜美林大学）

○堺 完（同志社大学）

山田 礼子（同志社大学）

館 昭（桜美林大学）

---

Ⅲ-6部会 B218

## 大学評価

司会： 前田 早苗（千葉大学） 西出 順郎（岩手県立大学）

9:30-9:50 戦後大学改革における適格認定に関する議論の状況と各大学の動向

○藤原 将人（立命館大学）

9:50-10:10 大学評価政策の変遷過程に関する一考察

○宋 善英（韓国大学教育協議会）

10:10-10:30 イギリスにおける専門職教育プログラムの承認プロセス

—The Health and Care Professions Council に着目して—

○白旗 希実子（東北公益文科大学）

鈴木 道子（山形県立米沢女子短期大学）

10:30-10:50 単位制度と認証評価/アクレディテーション—日米の政策議論と取組をめぐって—

○野田 文香（大学評価・学位授与機構）

10:50-11:10 戦間・戦時期における政府と私大経営—「指導監督」政策の展開—

○伊藤 彰浩（名古屋大学）

Ⅲ-7 部会 B107

## 学生

司会： 米谷 淳（神戸大学） 沖 裕貴（立命館大学）

**9:30-9:50** 新入生調査(JFS)2013年による学生類型化の試み  
—高等教育における学生類型の新展開—

○相原 総一郎（愛知教育大学）

**9:50-10:10** 昭和女子大学社会人メンター制度の概要と学生参加状況

○小森 亜紀子（昭和女子大学）

**10:10-10:30** 米国研究大学と連携した学生経験調査

—Student Experience Survey in Research Universities への参加と実施—

○齊藤 貴浩（大阪大学） \*前原 忠信（非会員：大阪大学）

**10:30-10:50** 留学生の社会経済的地位（SES）から見た米国大学留学動機と学生生活の実態

○天木 勇樹（明治大学）

**10:50-11:10** 優秀学生の特別措置に関する意識調査

○北垣 郁雄

---

B 2 1 8

## 高等教育研究と政策

司 会 橋本 鉦市 (東京大学)

報 告 1. 高等教育研究は政策をどのように扱ってきたか

濱中 義隆 (国立教育政策研究所)

2. 高等教育研究と高等教育政策—審議会機能を中心として—

大場 淳 (広島大学)

討論者 横山 晋一郎 (日本経済新聞社)

### <趣旨>

高等教育学会は、その設立趣旨にもあるように発足以来、実践、政策課題に寄与するアカデミックな研究を一つの拠り所としてきた。本学会がこれまで課題研究に掲げてきたテーマの多くも、その時々の実践・政策的課題と密接に結びつくものだった。だがそれは、政策的課題ではあったかもしれないが、必ずしも政策自体を対象としたものではなかった。多様な学問領域が交錯し、学術的な基盤を担保しつつ、実践に寄与するという当学会の原点に立ち返るテーマの一つとして、今年度の課題研究では高等教育政策を取り上げる。

政策をめぐるのは、一般的に政策論的知識(いわゆるinの知識)と政策過程論的知識(いわゆるofの知識)が必要といわれたりするが、以下の2つの報告を軸に進める予定でいる。1つ目は、従来の高等教育研究は、政策に関わっていかなる側面を課題視し、当該課題に関わる規範や因果関係を明らかにしてきたのか、という点を論じる。ここにおいては、学会誌等に掲載された政策研究をまずは俯瞰することを重視する。第1の報告は、いわば鳥瞰的アプローチである。これに対して2つ目は、具体的な政策 이슈等に着目し、そこに錯綜する政策の力学も理解しつつ、高等教育研究の役割と可能性、あるいはその限界も含めて考察を行う。

以上の2つは、異なるアプローチでありながら相補的なものである。ただし、高等教育研究、ないし高等教育研究者という視点に立脚したものであり、高等教育研究と政策を論じる上では必ずしも十分とはいえない。これとは別の重要な視角は、政策立案者の視点や、社会や世論の視点である。今回は後者の視点を採り上げ、政策動向と高等教育研究の双方を相対視できる位置にあり、世論形成への影響も少なくないマスメディアの立場から、2つの報告に対するコメントを提示してもらおう。

なお課題研究は従来、3名の報告者で行うことが通例であったが、今回のテーマは会員諸氏によって受け止め方や立場が分かれることも想定され、またコメントはその性格上、第3の報告としても位置づくと想定される。また、フロアとの議論の時間を十分確保する意味でも、報告者は2人とし、高等教育研究が政策に対して依って立つ立場や規範を改めて相互に反省的に考察する機会を提供したい。

B207

## 日本の大学院教育を考える(1)

### —第2期拡張期の帰結—

司会 吉田 文(早稲田大学)

- 報告 1. 大学院拡充政策後の日本の大学院問題 藤村 正司(広島大学)  
2. 教員から見た社会科学系大学院教育の現状 二宮 祐(日本工業大学)  
3. 大学院教育のエリート問題：学力トップ層の進路選択にみる現代的危機  
濱中淳子(大学入試センター)

コメンテーター 欧米からみた日本の大学院の教育

Maresi Nerad (Washington University)

通訳 米澤 彰純(名古屋大学)、田中 正弘(弘前大学)

#### <趣旨>

第二次世界大戦後に課程制大学院に向けて制度化された日本の大学院であったが、当初は研究者養成をミッションとした小規模なものであり、旧帝系の大学を中心とした一部の大学に設置されたにすぎなかった。そうした大学院もこれまで2回の拡張期を経て現在に至る。

第1の拡張期は、理工系人材育成が課題とされた高度経済成長期であり、理工系学部の大学教員を育成するために理工系の大学院が拡充されたことに始まるが、その後、修士課程修了生を採用する企業が増加し、大学院進学率は上昇し、銘柄大学からはじまった修士課程修了後に労働市場に参入するキャリアパスは定着をみせている。

第2の拡張期は規制緩和と平成不況が重なった1990年代であり、理工系以上に人文・社会科学系や学際領域が中心であった。欧米と比して日本の大学院進学者が少ないことが知識経済化への対応を遅らせるとの懸念から出発したが、曖昧な人材需要予測を基に大学院修了者(供給)が増加すれば、労働市場からの需要が高まるとする楽観的議論がベースにあった。また、この時期は、長期在学コース、夜間大学院、昼夜開講制など社会人の再学習(教育)のための措置や専門職大学院の制度化など、高度専門職業人の養成が大学院のもう1つのミッションとされたことにも特徴がある。

しかしながら、第1期とは異なり、第2期において多様な機能を期待されて拡張した大学院は、必ずしも当初期待された人材育成機能を果たしているとはいいがたく、平成25年度現在の人文・社会系の正規就職率は修士課程で5割、博士課程で3割に満たない。

そこで、本研究課題では、こうした経緯をたどってきた日本の大学院に関して、第1に、現在の拡大した大学院への進学動向ならびに大学院教育の内容・方法の実態を検討し、第2に、理工系修士課程修了者と異なり、人文・社会系大学院修了者が労働市場で評価されない原因を考察することを目的とする。

これらを検討するのは、第1については、高度専門職業人の育成をミッションとしたとき、また、大学院進学者が増加したとき、従来の専門学問の修得を目指しての研究室単位の教育および研究指導が有効なのか、あるいは教育内容や方法に何らかの変容が生じているのか否かを問とするからであり、第2については、供給が需要を生むという論理は、未だもって実現していない原因が、大学院教育の問題なのか、学生に資質の問題なのか、あるいは、労働市場の問題なのか、3者の関係構造を解き明かし、これらを総合して、今後の日本の大学院の在り方を考察するためである。

本課題研究は2か年の継続を予定しており、2014年度は第1のテーマを、2015年度は第2のテーマをとりあげて検討する。

大講義室

公開シンポジウム

新しい大学・大学院教育の形を考える  
～高度な教養教育と専門教育の融合で何が生まれるか～

- 報告
1. グローバル時代の高等教育  
中岡 司 (文部科学省)
  2. 大学院での教養教育：理想と現実－大阪大学リーディング大学院の試み  
小林 傳司 (大阪大学)
  3. カリキュラム論と SoTL アプローチからみる共通教養教育：  
同志社大学の新たな教育プログラム 山田 礼子 (同志社大学)
  4. 社会から見た大学教育プログラムについて (仮題)  
松本 美奈 (読売新聞社)

司会兼コメンテーター 川嶋 太津夫 (大阪大学)

<趣旨>

高等教育上の重要な役割として、社会の各分野・領域において、先導的、牽引的な役割を果たし得る人材の育成が挙げられる。また、わが国の社会に蔓延する閉塞感を払拭し社会的活力を取り戻すとともに、産業・経済や学術・科学技術などの様々な分野における国際的競争力を高めていく上で、世界で活躍できる「グローバル人材」を育成する「知の拠点」としての大学の果たすべき役割にも、大きな注目が集まりつつある。こうした人材育成にあっては、大学・大学院の教育課程を通して、高い専門性を身につけるにとどまらず、より高度な学際的、学融合的な知識・能力の涵養を図るとともに、地球規模で生起する政治・経済的な課題や社会的課題に柔軟に対応できる広い視野や豊かな教養をもつ「グローバルリーダー」を育成する取組も重要である。

従来より、普遍的な「知」を修得させ、深い洞察力を涵養する教育の役割は、学士課程の1、2年次に開設される教養教育科目に委ねられていた。しかしながら、学生が将来、社会の第一線で活躍する上で、狭い専門分野の知識・能力の修得にとどまらず、分野・領域横断的でグローバル化にもしなやかに対応できる知識・能力を会得していく上で、学士課程高年次さらには大学院課程での教養教育の重要性が強調されるべき時に来ている。そして、今日、博士課程教育リーディングプログラム等のいわゆるリーディング大学院が目指す専門の枠を超え世界に通用する質を備えた大学院学位プログラムのチャレンジにも、大きな期待が集まりつつある。こうしたことから、大学3、4年次や大学院課程において高度な水準で展開される教養教育や副専攻プログラム、さらには高度なグローバル人材の育成を主目的とする教育組織や教育プログラムなどの果たす役割及びその普及の可能性等について、今、これを考えることに大きな意義が認められよう。

## 日本高等教育学会主催 IR ワークショップ

### 日本型 IR をどう作るか

オーガナイザー 金子 元久 (筑波大学) 山田 礼子 (同志社大学)

#### <趣旨>

高等教育の質保証を推進する方策志向を背景として、既に GPA 制度、CAP 制の導入、単位の実質化等の方策がすでに多くの大学で実施されているが、そうした方策を十分に機能させ、質保証を推進するためには、IR と呼ばれる機能の開発や部門の設置が求められつつある。教育情報の公表に伴い、データを一元化し、今後稼働する「大学ポートレート」のようにデータを加工することも IR 部門の新たな仕事となる可能性も高い。さらには、大学のガバナンスの整備が求められるなかで、ガバナンスの支援ツールとしての IR という見方も浮上しつつある。

IR は、米国の高等教育機関で 1960 年代に誕生したといわれている。教育、経営、財務情報を含む大学内部の様々なデータの入手や分析と管理、戦略計画の策定、ア kredィテーション機関への報告書や自己評価書の作成を主な仕事として、IR 部門は、米国の多くの高等教育機関に常設されている。こうした活動から、組織運営に関する意思決定の支援部門というニュアンスが強い一方で、教育改善のためのデータを集積、分析し、教育改善のツールとしての学生調査の開発にもかかわっている。その意味で、学内の教育の質保証にも深くかかわっているのが IR 部門といえる。

現在の日本において、進展している IR は政策動向にあわせて変化し、またその多様な意味から、何が IR かと統一することは極めて困難であるともいえよう。今回のワークショップでは、「日本型 IR をどう作るか」というテーマのもと、オーガナイザーの趣旨説明を含めて、複数の大学を事例に「当該大学における IR の特徴と問題」を提示してもらい、フロアの参加者とともに議論することを目的とした。IR は教職員の両方が関わるということが予想されることから、教職共同が求められる部門あるいは機能でもある。多くの教員と職員の両方に是非参加していただき、本音で語り合う機会が提供できれば幸いである。

# 日本高等教育学会第17回大会プログラム

発行日：2014年5月15日

発行者：日本高等教育学会第17回大会実行委員会

## 大会実行委員会

### 委員長

早田 幸政（中央大学）

### 委員

石倉佑季子（大阪大学）

岩居 弘樹（大阪大学）

小貫有紀子（大阪大学）

川嶋太津夫（大阪大学）

齊藤 貴浩（大阪大学）

坂尻 彰宏（大阪大学）

佐藤 浩章（大阪大学）

島本 英樹（大阪大学）

津川 万里（大阪大学）

平井 啓（大阪大学）

廣森 聡仁（大阪大学）

藤井 翔太（大阪大学）

堀 一成（大阪大学）

松河 秀哉（大阪大学）

宮錦 三樹（大阪大学）

山脇 弘成（大阪大学）

和嶋雄一郎（大阪大学）

日本高等教育学会第17回大会実行委員会

〒565-0871 吹田市山田丘1-1

大阪大学 評価・情報分析室気付

E-mail: jaher2014@celas.osaka-u.ac.jp

<http://jaher.celas.osaka-u.ac.jp/taikai/>

Tel: 06-6879-4021（評価・情報分析室）

090-3356-9420（27日午後～29日のみ使用可）

## フランスCNEによる大学評価の研究

服部憲児 著 A5判・上製・186頁 税込価格4578円

フランスの大学評価機関、CNEが設立された当時の状況は近年の日本の状況にも似るが、フランスはCNEによる個別大学評価を進め、国家的にこの問題に対応している。本書はその活動内容、実践例、成果と影響そして課題を、教育者、研究者としての熱意ある視点で指摘する。我が国の大学に必要性が主張される「大学評価」の姿を明らかにし、評価から改善への道筋を示す。

## 大学アーカイブズの世界

菅 真城 著 A5判・上製・296頁 税込価格4536円

大学アーカイブズとは何か。その社会的使命や理論についての研究と大学図書館での経験から本書は書き下ろされた。国立大学アーカイブの設立からその業務、大学の自己点検や評価そして教育研究にも資することを紹介する。また公文書管理法施行により国立大学アーカイブズがこれとどのように対応し、どんな課題が生まれたか。今後、大学アーカイブズがどのように活用されて利用者とかかわるのかを試論する。

## ドーナツを穴だけ残して食べる方法

越境する学問一穴からのぞく大学講義

大阪大学ショセキカプロジェクト 編

A5判・並製・274頁 税込価格1620円

大阪大学が擁する幅広い研究分野を魅力的に紹介し、学問の懐の深さと考える愉しみを伝える出版&新しいスタイルの教育プロジェクト「ショセキカ」。「ドーナツを穴だけ残して食べる方法とは？」という学生たちの素朴な問いに、文理を問わず多彩な研究分野の大阪大学教員たちが挑む。常識を疑い、当たり前を覆すのが学問の醍醐味。ドーナツの穴から広がる奥深い知の世界にふみこんだアカデミックでユニークな回答に乞うご期待。

自他との対話を通して  
文章力を身につける。

日本語を活用したアカデミックなコミュニケーションを行う必要がある学生・研究者を対象とし、「内省」「分析」「分析・リバイズ」「執筆」といった、多様な演習タスクを継続的にこなすことにより、論文執筆能力を向上させることを目的とする。とくに、学習者同士の協働的活動により、学習・研究活動に対する巨視的な視点や対話を通して自ら向上する姿勢を獲得することを重視した画期的なテキストである。

## 論文作成のための 文章力向上プログラム

アカデミック・ライティングの核心をつかむ

村岡貴子  
因 京子  
仁科喜久子 著

B5・並製・216頁  
税込価格3024円



大阪大学出版会

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-7 大阪大学ウエストフロント  
TEL:06-6877-1614 FAX:06-6877-1617 info@osaka-up.or.jp



# 大学のグローバル化と内部質保証

早田幸政・望月太郎 編著

A5判◆一五〇〇円

今日、大学教育の国際的通用性が求められる中、学位に見合った知識・能力・スキルを学生が培うことができる教育を効果的に行うことが期待されている。本書は、大学教育の実質化と質保証のあり方を探り、そうした課題にグローバルな視点からアプローチする。

大学評価学会 シリーズ「大学評価を考える」第6巻

# 高等教育における「無償教育の漸進的導入」

大学評価学会編

A5判◆一四〇〇円

二〇〇四年より行われてきた大学評価学会による『高等教育における「無償教育の漸進的導入」』の軌跡をしるし、今後の取り組みの方向性を示唆する。

# 高等教育におけるつながり・協働する学習環境デザイン

久保田賢一 編著

A5判◆二五〇〇円

大学の授業改善を考えている大学教職員、高等教育に関心のある大学生、大学院生、そしてソーシャルメディアと教育に興味のある研究者を対象に、ソーシャルメディアを高等教育でどう利用し、教育に応用していくかをその理論と事例で紹介する。

# 大学教育をデザインする

久保田賢一・岸 磨貴子 編著

A5判◆二三〇〇円

構成主義の学習論に基づく、高等教育での新しい学習環境を提案する。講義などのフォーマルな学習に加え、プロジェクト活動、ワークショップを始め、オープンスペースでやりとりを含むインフォーマルな学習を総合的にデザインするための理論と事例を紹介する。

大学評価学会年報「現代社会と大学評価」第8号

# 「質保証」を問い直す

大学評価学会編

A5判◆一八〇〇円

大学評価学会第九回全国大会の報告を中心に「発達保証からのアプローチ」を振り返る。

## 晃洋書房

〒615-0026 京都市右京区西院北矢掛町7 ※価格は税別です。  
電話 075-312-0788 FAX 075-312-7447 <http://www.koyoshobo.co.jp>

# 大学教育

◎越境の説明をはぐくむ心理学  
富田英司・田島充士 編著

科学的研究による大学教育改善への実証的提言。 3700円

# 大学教育

アセスメント入門

◎学習成果を評価するための実践ガイド  
ウォルワード 著／山崎 安野・関田 訳  
シンプルかつ効率よく。2000円

# 日本の「学び」と 大学教育

渡部信一 著  
「学習から学びへ」教え込み型から「しみ込み型」へ。1800円

# 高校・大学から仕事 へのトランジション

◎変容する能力・アイデンティティと教育  
溝上慎一・松下佳代 編  
仕事への移行支援。 2800円

# ピアチューター！ トレイニングガイド

◎学生による学生の支援へ  
谷川裕稔・石毛 弓 編著  
学生同士の学びのために。2200円

# 大学学びのことはじめ

【3訂】◎初年次セミナーワークブック  
佐藤智明・矢島 彰・山本明志 編  
書き込み、切り取り、提出！ 高大接続のための好評ワーク。1900円

# 学生と楽しむ大学教育

◎大学の学びを本物にするFDを求めて  
清水 亮 橋本 勝 編  
大学教育を発展させる実践・理論・主張を一挙集約！ 3700円

# 学士力を支える 学習支援の方法論

代表編者 谷川裕稔  
高等教育機関における「学習支援」の枠組みを明確に提示。3600円

# 教養教育の思想性

林 哲介 著  
思想史と日本の学制の歩みを紐解くなかから、あるべき教養教育を提示する。 2800円

# キャリアデザイン学 への招待

◎研究と教育実践  
金山喜昭・児美川孝一郎 武石恵美子 編  
主体的なキャリア形成のために、必要な学びとは何か。2200円

# ゆとり京大生の大学論

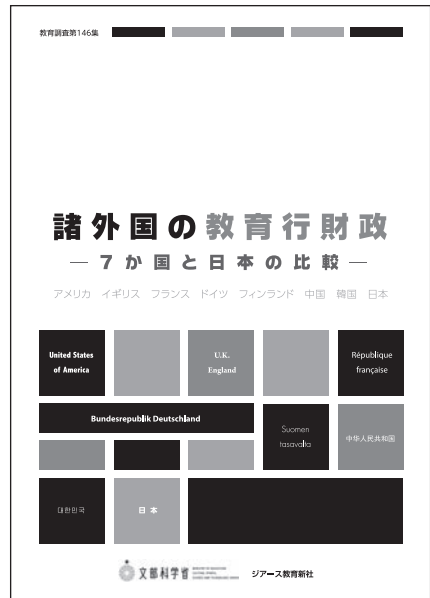
◎教員のホンネ、学生のギモン  
安達千李 他編／寄稿者多数  
学生たち自らが、大学教育とは何かを問う白熱の大学論！ 1500円

# 学生のための学び入門

◎ヒト・テキストとの対話からはじめよう  
牧 恵子 著  
読書と対話をしっかり行う初年次テキスト。 1800円

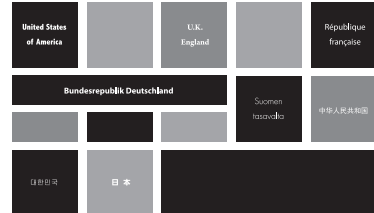
## ナカニシヤ出版

TEL 075-723-0111 〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15  
FAX 075-723-0095 <http://www.nakanishiya.co.jp/> [表示は税抜価格]



諸外国の教育行財政  
— 7か国と日本の比較 —

アメリカ イギリス フランス ドイツ フィンランド 中国 韓国 日本



文部科学省 シアース教育新社

文部科学省 編著

A4判 372 ページ  
定価 (本体 3,700 円 + 税)

文部科学省「教育調査」シリーズ第146集として、アメリカ合衆国、イギリス、フランス、ドイツ、フィンランド、中国、韓国及び日本の各国における教育行財政制度の現状をまとめた。国別に、「教育行政制度」として、制度の概観、国の教育行政、地方の教育行政、学校の管理運営、学校評価、私学行政と「教育財政制度」として、国と地方の教育財政制度の概観、初等中等教育と高等教育のそれぞれの財政制度について記述。

国立大学法人法コメンタール

国立大学法人法制研究会 編著  
A5判/710頁 本体 4,700 円 + 税

質保証時代の高等教育(上) 経営・政策編

山本眞一 著  
B6判/332頁 本体 2,300 円 + 税

質保証時代の高等教育(下) 教育・研究編

山本眞一 著  
B6判/364頁 本体 2,300 円 + 税

特色GPPのすべて 大学教育改革の起動

(JUA選書 第14巻)  
絹川正吉 小笠原正明 編/財団法人大学基準協会 監修  
A5判/464頁 本体 4,095 円 + 税

国立大学法人と労働法

小島典明 著  
B6判/340頁 本体 2,200 円 + 税

障害学生支援入門

— 誰もが輝くキャンパスを —  
鳥山由子 竹田一則 編  
B5判/170頁 本体 1,800 円 + 税

定期購読申込受付中!!

文部科学教育通信

大学改革をメインとしたテーマアップ通信 月2回発行(第2・4月曜日)  
A4判 40~52頁 月額購読料 本体 3,000 円 + 税 (送料別)

教員を育て磨く専門誌 シナプス

教員養成、教員研修をテーマに大学、教育委員会、教育現場の教職に関わる諸情報を発信!! 月刊 B5判 56~64頁 本体 810 円 + 税 (送料別)



シアース  
教育新社

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 1-23 宗保第 2 ビル

電話 03-5282-7183/FAX 03-5282-7892

E-mail: info@kyoikushinsha.co.jp URL http://www.kyoikushinsha.co.jp/

アジア開発銀行出版シリーズ: Higher Education in Dynamic Asia 好評既刊

◆不平等なアクセス? —アジアの高等教育のより良いバランスを考える—

Access without Equity?: Finding a Better Balance in Higher Education in Asia. February 2012. (Higher Education in Dynamic Asia: Study Reports) 58 pp. 2012 (Asian Development Bank, PH) <000-95406>  
ISBN 978-92-9092-636-8 paper ¥3,712.- (税込)



◆統合的成長のためのアジアの高等教育の資金調達

Counting the Cost: Financing Asian Higher Education for Inclusive Growth. January 2012. (Higher Education in Dynamic Asia: Study Reports) 51 pp. 2012 (Asian Development Bank, PH) <000-95397>  
ISBN 978-92-9092-579-8 paper ¥3,998.- (税込)



◆アジアの高等教育のための地域の協力と国際的協調

Regional Cooperation and Cross-Border Collaboration in Higher Education in Asia: Ensuring that Everyone Wins. April 2012. (Higher Education in Dynamic Asia: Study Reports) 26 pp. 2012 (Asian Development Bank, PH) <000-95404>  
ISBN 978-92-9092-734-1 paper ¥3,141.- (税込)



◆アジアにおける私立の高等教育

Private Higher Education across Asia: Expanding Access, Searching for Quality. March 2012. (Higher Education in Dynamic Asia: Study Reports) 40 pp. 2012 (Asian Development Bank, PH) <000-95396>  
ISBN 978-92-9092-700-6 paper ¥3,141.- (税込)



アジア開発銀行(ADB)出版物: 日本総代理店 極東書店



株式会社 極東書店

〒101-8672 東京都千代田区三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル TEL03(3265)7531 FAX(3556)3761

http://www.kyokuto-bk.co.jp E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp

〒530-0051 大阪市北区太融寺町 1-17 梅田アスカビル TEL06(6362)5515 FAX(6362)8882

〒604-0985 京都市中京区麩屋町通丸太町下る 井口ビル TEL075(231)2093 FAX (231) 3859

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小稷ビル TEL092(751)6956 FAX (741) 0821

学習方法・カリキュラムの理論と実践の新展開

**新刊** ストリー中心型カリキュラムの理論と実践  
—オンライン大学院の挑戦とその舞台裏  
根本淳子・鈴木克明編著 A5・並製・二五八頁・三四〇〇円

**新刊** 大学生の学習ダイナミクス  
—授業内外のラーニング・プリッジング  
河井亨著 A5・上製・三二二頁・四五〇〇円

**新刊** ハードプロジェクト・ゼロの芸術認知理論とその実践  
—内なる知性とクリエイティブを育む  
ハワード・ガードナーの教育実践  
池内慈朗著 A5・上製・五〇四頁・六五〇〇円

**新刊** 社会形成力育成カリキュラムの研究  
—社会科学・公民科における小中高一貫の政治学習  
西村公孝著 A5・上製・五二〇頁・六五〇〇円

**新刊** メディア・リテラシー教育における「批判的」な思考力の育成  
森本洋介著 A5・上製・三三六頁・四八〇〇円

**新刊** 主体的学び(創刊号)  
—主体的学び研究所編  
A5・並製・一七六頁・一八〇〇円

**新刊** 「主体的学び」につながる評価と学習方法  
—カナダで実践されるICEモデル S・ヤング/R・ウィルソン著  
土持ゲリー法一監訳 A5・並製・二八八頁・一〇〇〇円

**新刊** ポートフォリオが日本の大学を変える  
—二五〇〇円  
ラーニング・ポートフォリオの秘訣  
二五〇〇円  
ティーチング・ポートフォリオの秘訣  
二〇〇〇円

**新刊** 学術課程教育の質保証へむけて  
—学生調査と初年次教育からみえてきたもの  
山田礼子著 A5・上製・二八八頁・三二〇〇円

**新刊** 「深い学び」につながるアクティブラーニング  
—アクティブラーニングで学生が成長するのが  
学びの質を保証するアクティブラーニング

〈河合塾編著・三部作 各A5・並製・既刊二八〇〇円〉

大学改革…世界的視野の下での考察

**新刊** 新自由主義大学改革 —国際機関と  
編者代表 細井克彦 A5・上製・三八四頁・三八〇〇円

**新刊** トランスナショナル高等教育の国際比較  
—留学概念の転換  
杉本均編著 A5・上製

**新刊** 新興国家の世界水準大学戦略  
—世界水準をめざすアジア・中南米と日本  
P・G・アルトバック/J・バラ編 米澤彰純監訳  
A5・上製・四〇八頁・四八〇〇円

**新刊** 教育機会均等への挑戦  
—授業料と奨学金の8カ国比較  
小林雅之編著 A5・上製・四九六頁・六八〇〇円

**新刊** 日本の高等教育諸改革へ向けて  
—認証評価制度のルーツを探る  
林透著 A5・上製・二一六頁・三八〇〇円

**新刊** 現代教育制度改革への提言 (上)二八八頁  
(下)二八〇頁  
—日本教育制度学会編  
各A5・上製・二八〇〇円

**新刊** 現代日本の教育課題 —21世紀の方向性を探る  
—村田翼夫・上田学編著  
A5・並製・三四四頁・二八〇〇円

**新刊** 学生支援に求められる条件  
—学生支援GPの実践と新しい学びのかたち  
大島勇人・浜島幸司・清野雄多著 A5・並製・一七二頁・一八〇〇円

**新刊** 学級規模と指導方法の社会学  
—山崎博敏編著  
A5・並製・一九二頁・三二〇〇円

**新刊** (第二版)大学再生への具体像  
—潮木守一著  
四六・並製・三三六頁・二四〇〇円

**新刊** 原理原則を踏まえた大学改革を  
—場当たり策からの脱却こそグローバル化の条件  
館昭著 四六・上製・三二四頁・二〇〇〇円

**新刊** 大学教育改革と授業研究 —大学教育実践  
の現場から  
須藤敏昭著 A5・並製・一六八頁・二八〇〇円

日本の高等教育諸改革へ向けて(続き)

**新刊** 大学事務職員のための高等教育システム論  
—より良い大学経営専門職となるために  
山本眞一著 四六・並製・一七六頁・一八〇〇円

**新刊** 大学のカリキュラムマネジメント  
—理論と実際  
中留武昭著 A5・上製・二九六頁・三二〇〇円

**新刊** 各国における高等教育改革の展開

**新刊** イギリスの大学 —対位線の転位による質的転換  
—秦由美子著  
A5・上製・四二四頁・五八〇〇円

**新刊** ドイツ統一・EU統合とグローバルバリズム  
—教育の視点からみたその軌跡と課題  
木戸裕著 A5・上製・六二四頁・六三〇〇円

**新刊** オーストラリアのグローバル教育の理論と実践  
—開発教育の継承と新たな展開  
—木村裕著  
A5・上製・二七二頁・三六〇〇円

**新刊** 新版オーストラリア・ニュージーランドの教育  
—グローバル社会を生き抜く力の育成に向けて  
—青木麻衣子・佐藤博志編著  
A5・並製・二〇〇頁・二〇〇〇円

**新刊** オーストラリアの教員養成とグローバルバリズム  
—多様性と公平性の保証に向けて  
—本柳とみ子著  
A5・上製・三三二頁・三六〇〇円

**新刊** 教育における国家原理と市場原理  
—チリ現代教育政策史に関する研究  
—斉藤泰雄著  
A5・上製・三六〇頁・三九〇〇円

**新刊** 中央アジアの教育とグローバルバリズム  
—嶺井明子・川野敏編著  
A5・上製・二六四頁・三二〇〇円

**近刊** (一部仮題を含む)  
—学習成果にもとづく大学教育の質保証  
—チューニングとアセスメントに見る世界の動向  
—深堀聰子編著

**近刊** 専門職大学院の新展開  
—吉田文編著

**近刊** 教員養成と教育哲学  
—林泰成・山名淳・下司晶・古屋恵太 編著

# FDガイドブック

## — 大学教員の能力開発

ケイ・J・ガレスピー他編著 羽田貴史 監訳

A5判並製・340頁 本体3800円



理論と実践が融合した  
ファカルティ・デベロップメント（II教員の能力開発）の基本図書。  
大学それぞれの取り組みの実際や、よくある課題とその解決策を詳しく解説する。

# 大学教員のための ルーブリック評価入門

ダネル・ステイブンス他著 佐藤浩章 監訳

B5判並製・200頁 本体2800円



採点時間を節約し、効果的なフィードバックを与え、学生の学習を促す評価ツールである「ルーブリック」。作り方や使い方、授業改善・キャリア開発などでの活用法を紹介する。

高等教育シリーズ最新刊

## 大学における

## 「学びの場」づくり

— よりよいティーチングのための  
7つの原理

スーザン・A・アンブローズ他著  
栗田佳代子訳 予価3800円

どのように学生は学習するのかを深く理解して効果的な教育を行えば、学習のしかたをよりよい方向へと変えることができる。実際の授業を題材に7つの鍵となる学習原理を説明。

## 大学の教務Q&A

中井俊樹・上西浩司編  
本体1500円

大学教育を支える教務の業務を遂行する上で知っておきたい、実践的知識に関する100の質問に答える。現場で蓄積された具体的対応策。

## 大学のIRQ&A

中井俊樹・鳥居朋子・藤井都百編  
本体2000円

教育活動や経営活動の改善、外部評価への対応など、大学の重要な意思決定を支援するIRの業務をわかりやすく解説。

## IR実践ハンドブック

— 大学の意思決定支援

R・D・ハワード編  
R・D・ハワード編  
大学評価・学位授与機構IR研究会  
本体3600円

IR担当者が心得ておくべきツールやデータ分析の手法、学内への貢献の仕方を解説。大学の戦略形成に寄与するノウハウを網羅する。

日本高等教育学会編

# 高等教育研究

## 17 大学教育の

## マネジメントと

## 革新

- 1 高等教育研究の地平\*
- 2 ユニバーサル化への道\*
- 3 日本の大学評価\*
- 4 大学・知識・市場\*
- 5 大学の組織・経営再考\*
- 6 高等教育 改革の10年
- 7 プロフェシヨナル化と大学
- 8 学士学位プログラム
- 9 連携する大学\*
- 10 高等教育研究の10年\*
- 11 大学生論\*
- 12 変容する大学像
- 13 スタッフ・デベロップメント\*
- 14 高大接続の現在\*
- 15 高等教育財政
- 16 高等教育研究の制度化と課題

\*オンデマンド対応本

# 未 FUTURE CLASSROOM® 来型学習空間をご提案します。



## 建築躯体に手を加えることなく ICT空間を容易に構築。

現在の授業では、固定されたテーブルに着いて一方的に話を聞く学習ばかりではなく、最新のICT機器を用いた授業や、PBL※などのグループ単位で能動的に活動するような授業が増えてきています。

そういった授業の中では、通常の「レクチャラ」から、グループ毎に分かれて活動する「グループワーク」、成果を共有・発表する「プレゼンテーション」や「ふりかえり」といった場面の転換が必要不可欠です。それぞれのシーンにマッチした空間セッティングへの変換が、スムーズかつクイックに実現できるこれからの教室、それが「FUTURE CLASSROOM®〈フューチャークラスルーム®〉」の考え方です。

※PBL(Project Based Learning)：授業形態の一つで「課題解決型授業」のこと。

「フューチャークラスルーム®」は、学校関係者や企業・研究機関と一緒に新しい授業スタイルの研究開発・実証実験を行える場所として、新川本社ビル(東京都中央区)と大阪支店(大阪府大阪市)に設置しております。ぜひ、ご来場ください。



### 内田洋行 公共本部



いい「学校・教育・授業」づくりを支援いたします。

<http://school.uchida.co.jp/>

東京 〒135-0016 東京都江東区東陽2-3-25

大阪 〒540-8520 大阪市中央区和泉町2-2-2

札幌 〒060-0031 札幌市中央区北1条東4丁目1-1

福岡 〒810-0041 福岡市中央区大名2-9-27

名古屋 〒460-0003 名古屋市中区錦2-2-2 名古屋丸紅ビル13F

☎ 03(5634)6402

☎ 06(6920)2487

☎ 011(214)8630

☎ 092(735)6240

☎ 052(222)7234